

【身に付けるべき各能力における到達レベルの定義】

「これからのデジタル社会において身に付けるべき能力」について、海外のICTリテラシー関連事例の調査を行い、ロードマップで示された案を元に、身に付けるべき5つの能力領域及び22個の能力を整理し、その能力の到達レベルを定義しました。

能力領域	#	能力番号	身に付けるべき能力	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	偽・誤情報							
				他律	平常時は自律	自律	他者をリード	発信者	受信者	拡散者	生成AI				
				他者の助けがある状態で能力を発揮できる				生活に必要な範囲で当該の能力を発揮できる				当該の能力について基本的な内容を一通り身につけて利用できる			
				<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で生活に必要なデジタルサービスを十分に活用できない 学ぶことに対する意欲が低い 行動の判断軸がない。実生活での行動規範にのみ従う デジタル空間の特性について理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で単純な課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる トラブルがある場合や外部からの意識を受けて学ぶ 行動の善し悪しの判断で間違える場合がある デジタル空間の特性への理解が薄い 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のニーズに合わせて、明確に定義された課題、初めて出会った課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 他者に迷惑をかけない範囲で自らの行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を基本的な範囲で理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な文脈の中で、自分や他者のニーズに合わせて、必要であれば他者をガイドしながら実行できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 発信者としての責任や公共へ貢献する意識を持って行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を十分に理解している 	※偽・誤情報や生成AIに特に関連する能力には○を記載しています。							
a.【取得管理】	1	a-1	必要な情報を明確にし、検索結果のデータや情報、デジタルコンテンツを検索、評価、管理する能力	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、自ら必要な情報を把握し、簡単な検索ツールを利用して検索を実行できる 自らの知っている検索ツールをとりあえず利用するだけで、検索ツールを利用する際のアルゴリズムや商業的観点について把握していない 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な検索ツールであれば他者の助けを必要とせずに利用することができる 日常生活の中で必要となる検索の方法は理解しているものの、インターネット検索の特性に対する理解は乏しくその仕組みや危険性について理解できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の検索ツール、検索エンジンを中心に合わせて使い分けられる。また、新しい検索ツールについても自ら調べて利用方法を理解できる インターネット検索の仕組みや背景にある商業的観点などについて基礎的な内容を理解しており、必要に応じて検索方針を変更・アップデートできる 	<ul style="list-style-type: none"> 検索ツールにおけるさまざまなオプションを理解した上で、その場に合わせた最適な形で利用できる。また、最新の検索ツールについても積極的に理解を行い、使い方を学習できる インターネット検索におけるパーソナライゼーションや商業的観点について幅広く理解しており、情報過多に陥ることを避けながら検索を実行するための方法論を持っている。また、その内容について他者を支援できる 					○			
	2	a-2	自分の好みの情報や自分と似た意見に触れやすくなるインターネットの特性を踏まえて、客観的に情報及び情報源の信頼性を分析し、比較し、批判的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば情報源を分析できるが、個人では情報源の正しさを評価できない 評価する必要性を認識していない 他者の助けがあれば情報源を分析できるが、個人では情報の正しさを評価できない 評価する必要性を認識していない 	<ul style="list-style-type: none"> 検索結果や提示された情報の出典を確認することへの重要性を認識しており、明らかに怪しい情報源は見分けことができる インターネット上の情報には偽情報・誤情報が含まれることを理解しており、常にはないが情報の正確性に意識を向けて検証することがある 	<ul style="list-style-type: none"> 検索・表示結果の情報源を分析することの重要性を理解し、一次情報を重視する姿勢を持っている。また、初めて出会った情報源に対しても最低限の分析を実施し、その正確性を検証できる エコチェンジャーやフィルターバブルなど検索結果における偏りを理解しており、情報を事実と意見に分けた上で情報の信憑性を分析できる 	<ul style="list-style-type: none"> 検索・表示結果の情報源を分析することの重要性を理解し、不慣れたトピックについてもその情報源の正確性を検証することができる その方法について他者を支援することができる 検索結果やSNSの表示結果におけるアルゴリズムの特性や商業的側面について包括的に理解し、常に情報の正確性と特性（意見、広告、事実など）を分析的に検証できる。また検証する態度を持っている 			○		○			
	3	a-3	データ、情報、デジタルコンテンツを保存、管理、整理する	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあればデータを保存し、取り出すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上で取得したデータや自ら作成したデータなどをデバイス上に保存し、必要に応じて取り出すことができる データの構造的な管理などはできず、表示されたデータの恣意的な表現などの危険性を把握していない 	<ul style="list-style-type: none"> 状況に合わせて必要な環境に情報を保存でき、必要に応じて外部のオープンデータなどにもアクセスできる データを素早く取り出し、分析するために簡易的にデータを構造化して管理できる。またデータの表現における恣意性についても基本的な内容については理解している 	<ul style="list-style-type: none"> オフライン・オンラインを組み合わせ、適切な場所に情報を保存し、管理している。また、保存・管理の方法について他者にも説明できる データベースやデータマイニングソフトなど専門のツールを利用して、情報を構造的に保存できる。また、データの可視化ツールを用いて情報を外部に伝えることができるほか、情報の可視化における恣意性や危険性についても理解し、他者を支援できる 								
b.【安全確保】	4	b-1	商業目的で個人情報を利用されることおよびそのリスクを理解した上で、デバイス、デジタルコンテンツ、個人情報、プライバシーを保護する能力	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、デバイスの保護を含めた簡単な安全・セキュリティ対策を設定できる 他者の助けがあれば、個人データを保護するための簡単な対策を実行できる プライバシーポリシーの存在について認識できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な範囲でデバイスの保護を含めた簡単な安全・セキュリティ対策を実行しながら、オンライン上での活動ができる 個人データの利用について概要を理解しており、簡単な対策を実行できる プライバシーポリシーの存在は認識しているが、内容は理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル空間、オフライン空間双方においての安全・セキュリティ対策について基本的な内容を理解しており、デバイスの保護を含めた必要なセキュリティ対策を実行しながら、安全にオンライン上で活動できる 個人データの共有や利用について基本的な利点とリスクを理解しており、適切にデータを管理できる プライバシーポリシーの目的とその概要を理解しており、自らの目的に合わせて必要な場面でその内容を確認できる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル空間、オフライン空間双方において安全を確保するための対策について網羅的な内容を理解しており、デバイスの保護を含めた適切な対策を実行しながらデジタルツール、デジタルサービスを利用できる。また、その内容について他者を支援できる 個人データの共有や利用について網羅的に理解しており、自らのデータを適切に管理しながら必要な場面では他者に提供できる。また、これらの内容について他者を支援できる プライバシーポリシーの目的とその内容を幅広く理解しており、自らの目的に合わせて適切に利用できる。また、その内容について他者を支援できる 								
	5	b-2	インターネット上の違法・有害情報や偽・誤情報のリスクを理解し対処する	<ul style="list-style-type: none"> 偽情報、誤情報の存在や違いについて理解できていない 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上に偽情報や誤情報が存在することは理解しており、常にはないが情報の正確性に意識を向けて検証することがある 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上の偽情報や誤情報の特徴・リスクとその見分け方について包括的な内容を理解しており、不慣れた分野においても必要な対策をとって検証できる 	<ul style="list-style-type: none"> AIなどの先端技術を用いて作られたディープフェイクなど高度に複雑な偽情報や誤情報に対しても、自らの知識を統合して対応できる。必要であれば偽・誤情報の検証結果を共有する、他者に見分け方の助けとなる支援をするなど社会に貢献できる 	○	○	○	○	○			
	6	b-3	インターネット上での不適切な振舞いのリスクを理解し対処する	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上における危険行動について意識が向いていない。他者の助けがあれば、危険行動を避けられる デジタル環境特有の行動規範に対して理解がない、あるいは乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ネットいじめやインターネット上での不適切な行動にリスクがあることを理解しており、簡単な対策を取ることができる 日常生活に必要な範囲でデジタル環境における行動規範を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上での不適切な行動や、不適切な行動を取りやすくなるという習性について基本的な理解を持っており、自らの行動を顧みることができる。また、オンラインで被害を受けた場合に取るべき対策について理解している デジタル環境において求められる基本的な行動規範を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上での不適切な行動や、不適切な行動を取りやすくなるという習性について包括的な理解を持っており、インターネットを利用するさまざまな場面で適切な行動を取ることができる さまざまな文化的背景の人々が参加するデジタル環境において求められる行動規範について理解しており、他者の権利や文化に配慮した形で行動することができる 			○		○			
	7	b-4	身体的及び精神的な健康を保つ	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールの利用による健康への影響や危険性について理解が乏しく、依存など過度な利用への対策が取れない 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールの長時間の利用や依存などの危険性について簡単に理解し、簡単な対策は取れている 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルテクノロジーの利用が健康や幸福、生活へ与える影響や、利用を促進するために企業が採用する戦略などについて基本的な内容は理解している。その上で、危険を回避する形で安全にデジタルテクノロジーを利用できている 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルテクノロジーの利用が健康や幸福、生活へ与える影響や、利用を促進するために企業が採用する戦略などについて包括的に理解しており、新しいテクノロジーを利用する際にも適切な対策をとることができる。また、その内容について他者を支援できる 				○	○			
	8	b-5	デジタル技術とその利用が自然環境に与える影響について理解する	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術およびその利用が環境に影響を与えることに理解がない、あるいは乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の環境への影響を配慮してデジタル技術を利用できることがある 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の環境への影響を理解し、基本的な範囲では環境への負荷の少ない形で利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術が環境に与える影響とその対策について幅広く理解し、自ら適切に行動できるだけでなく他者にその内容について説明し、支援できる 								

【身に付けるべき各能力における到達レベルの定義】

「これからのデジタル社会において身に付けるべき能力」について、海外のICTリテラシー関連事例の調査を行い、ロードマップで示された案を元に、身に付けるべき5つの能力領域及び22個の能力を整理し、その能力の到達レベルを定義しました。

能力領域	#	能力番号	身に付けるべき能力	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	※偽・誤情報や生成AIに特に関連する能力には○を記載しています。 偽・誤情報 発信者 受信者 拡散者 生成AI				
				他律	平常時は自律	自律	他者をリード					
				他者の助けがある状態で能力を発揮できる	生活に必要な範囲で該当の能力を発揮できる	該当の能力について基本的な内容を一通り身につけ、利用できる	生活の中で該当の能力を使いこなし、他者を支援できる程度に理解している					
c.【他者・社会とのコラボ】 デジタル技術を通じて他者や社会と関わる能力	9	c-1	デジタル技術を用いて他者と交流しコミュニケーションを取れる	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で生活に必要なデジタルサービスを十分に活用できない 学ぶことに対する意欲が低い 行動の判断軸がない。実生活での行動規範にのみ従う デジタル空間の特性について理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で単純な課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる トラブルがある場合や外部からの意識を受けて学ぶ 行動の善し悪しの判断で間違える場合がある デジタル空間の特性への理解が薄い 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のニーズに合わせて、明確に定義された課題、初めて出会った課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 他者に迷惑をかけない範囲で自らの行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を基本的な範囲で理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な文脈の中で、自分や他者のニーズに合わせて、必要であれば他者をガイドしながら実行できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 発信者としての責任や公共へ貢献する意識を持って行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を十分に理解している 					
	10	c-2	デジタル技術を活用して、他者と情報やコンテンツを共有できる	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、自分自身が持つ情報やデータを他者に共有できる 他者の助けがあれば、情報共有する際の危険性や配慮について認識できる 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なデジタルツールを利用して、自分自身の他のデバイスや他者に情報、データ、コンテンツなどを共有できる 情報共有する際の権利や信憑性への配慮の重要性を理解し、場合によっては対策を実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を共有することに意欲的であり、共有する情報や相手の環境などに合わせて基本的なデジタルツールを用いて共有できる 共有する情報が利用される際のリスクや共有にあたって配慮すべき内容について基本的な内容を理解しており、日常生活の範囲では適切な形で情報共有を実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの持つ専門知識や他者に有益な知識を共有する重要性を理解しており、積極的に実施している。その際には共有する情報の種類や相手に合わせて最適なデジタルツールを選択し、利用できる。また、共有の方法について他者に教えられる 共有された情報がAIに利用されるリスクや偽情報・誤情報のリスクなど必要な配慮について網羅的に理解しており、日常生活及び仕事などにおいても適切な対策をとった上で情報を共有している。また、その方法について他者を支援できる 					
	11	c-3	社会活動に有益なデジタルサービスやデジタルツールを利用できる	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、社会活動に必要なデジタルサービスを利用できる 他者の助けがあれば、市民として社会参加に必要なデジタルツールを選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にデジタルサービスを探すなどの態度は取れないものの、日常的にいくつかのデジタルサービスを利用して、社会に参加している 日常生活で利用しているデジタルツールを用いて限られた範囲であっても、社会活動に参加できている 	<ul style="list-style-type: none"> 自らにとって有益なデジタルサービスを取り入れながら社会参加しており、必要に応じてそのために必要なツールや証明書の獲得などを実施できている 自身の能力を発揮し社会に参加するために必要なデジタルツールについて基本的な内容を理解し、他者への配慮をしながら社会に参加できる 	<ul style="list-style-type: none"> 社会参加においてデジタルサービスを利用することの有用性を理解しており、日常生活のさまざまな場面でデジタルサービスを用いて積極的に情報を収集し、社会に参加している。また、他者がデジタルサービスを用いて社会参加する際のサポートができる 適切なデジタルツールを利用しながら他者と協力し、積極的に市民活動に参加できる。また、その方法について他者を支援できる 					
	12	c-4	デジタルツールを利用して、他者とオンラインで繋がりがながら作業できる	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、必要なデジタルツールを利用して他者と共同作業ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な範囲で簡単なデジタルツールを利用して他者と共同作業ができる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル環境において共同作業を行う上で求められる基本的な態度を理解した上で、社会的に広く利用されているデジタルツールを選択し、他者と共同作業を行うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル環境において他者と共同作業を行うことに対して積極的にあり、目的に合わせて適切なデジタルツールを評価し選択できる。また、共同作業を効率的に進めるための網羅的な知識を保有しており、他者を支援できる 					
	13	c-5	デジタル空間でのコミュニケーションの特性を理解し、多様な背景・環境下にある人々に配慮できる	<ul style="list-style-type: none"> デジタル空間において常に同一のコミュニケーションをとっている デジタル技術が人々の社会的幸福および社会的弱者の包摂につながることに理解していない、あるいは理解が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活でも関わるような範囲においてはデジタル空間においても受け手に合わせたコミュニケーションが取れる 社会的弱者の社会参加や幸福をサポートするために利用できるデジタルツールを何かしら理解している 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル環境において他の参加者の文化的、世代的背景などを理解した上で、自らのコミュニケーションを変えることができる 社会的弱者を含む幅広い人々が社会に参加するために利用できる基本的なデジタルツールを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな文化的、世代的背景を理解した上で、最適なコミュニケーションの方法を選択し、その方法について他者を支援できる 社会的弱者を含む幅広い人々が社会に参加するためにデジタルツールが有効であること、またその目的に対して必要な具体的な技術について理解し、他者に教えることができる 					
14	c-6	デジタル空間における個人情報の対象やその重要性を理解し、適切に管理する	<ul style="list-style-type: none"> デジタルアイデンティティの対象やその内容について理解が乏しい インターネット上の自らの活動がデータとして収集されていることを理解していないが、他者のサポートがあればそのリスクを回避する対策を取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルアイデンティティの基本的な内容について理解し、自ら作成できる インターネット上の自らの行動データがAIやシステムによって収集、分析されることを理解しており、簡単な対策を取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルアイデンティティの対象となるデータやその利用について基本的な内容を理解し、利点とリスクを考慮した上で自ら作成し、管理できる インターネット上の自らの行動データや公開された個人情報などがAIやシステムによって収集、分析されることを理解しており、データの公開範囲や収集されたデータの管理など基本的な対策を取ることができる。また、他者の情報公開においても同じように配慮できる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルアイデンティティの対象となるデータやその利用について網羅的に理解し、利点とリスクを考慮した上で自ら作成し、管理できる これらの内容について他者を支援できる インターネット上の自らの行動データや公開された個人情報などがAIやシステムによって収集、分析されることを理解しており、データの公開範囲や収集されたデータの管理など網羅的な対策を取ることができる。また、これらの内容について他者を支援できる 						
d.【作成編集】 デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力	15	d-1	さまざまな形式のデジタルコンテンツを作成・編集し、自己表現できる	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、簡単なデジタルコンテンツを制作でき、自らを表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの目的に合わせて、何かしらのデバイスを使って簡単なデジタルコンテンツを制作し、自己表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のツール（デジタルデバイスやソフトウェアなど）を使い、目的に合わせて学習しながら必要なデジタルコンテンツを制作・編集し、自己表現できる。また、制作にあたってはアクセシビリティへの配慮ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なデジタルコンテンツの特徴やAIによるデジタルコンテンツ制作技術の発展、アクセシビリティへの配慮などコンテンツ制作に関連する知見について網羅的に理解している。その上で、自らの目的に合わせて課題を解決しながら最適な形式でデジタルコンテンツを制作し、自己を表現できる。またこれらの内容について他者を支援できる 					
16	d-2	既存の情報、コンテンツ、知識などを互いに組み合わせ、新しい知識やコンテンツを生み出す	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、既存のコンテンツや情報を組み合わせ、新しいコンテンツを制作できる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で必要となる簡単な範囲では、自分の力でデジタルコンテンツや情報、ハードウェアを収集し、組み合わせることによって新しいコンテンツ・ハードウェアを制作できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの目的に合わせて、必要となるデジタルコンテンツ、情報、ソフトウェア、ハードウェアを理解している。それらを収集し、組み合わせ、デザインプロセスを通して検証しながら、新しいデジタルコンテンツの形にまとめ上げることができる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツの創造に必要なソフトウェア、ハードウェア、AIや他者の作った既存のコンテンツ、情報などを網羅的に理解し、AIなどによる変更の可能性を考慮してそれぞれを評価できる。その上で、これらを組み合わせながら自らの目的に合わせてデジタルコンテンツを制作し、またその方法について他者を支援できる 						
17	d-3	著作権やコンテンツの利用許諾等の各種法令の適用の重要性を意識する	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツ、商品、サービスが知的財産として保護されていることへの認識が少なく、他者の助けがあれば適切な形でオンライン上のコンテンツを使用し、アップロードできる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツ、商品、サービスの著作権について認識しており、日常的に利用する範囲では著作権に配慮してコンテンツを再利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツ、商品、サービスの知的財産権保護について基本的な内容を理解しており、自らの目的に合わせてデジタルコンテンツを選択し、適切な形で利用できる。また、自らのコンテンツを共有する際にも保護を施せる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツ、商品、サービスの知的財産権保護について網羅的に理解しており、常に他者の権利を意識しながら自らの目的にあわせて最適なデジタルコンテンツを選択し、適切な形で利用できる。また、自らのコンテンツの保護にも意識を向けられるほか、これらの内容に関して他者を支援できる 						
18	d-4	コンピュータシステムが問題解決や作業を行うためのプログラム（指示命令）を作る	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、簡単なプログラミングを実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語およびコンピュータプログラムの概要について理解し、日常においてであれば簡単なプログラムを記述し、実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語、アルゴリズム、コンピュータプログラムについて基本的な内容を理解し、目的に合わせてプログラミング言語を用いてプログラムを記述し、実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語、アルゴリズム、コンピュータプログラムについて幅広く知識を持っており、新しい課題に対してもプログラミング能力を用いて取り組み解決することができる。また、AIなどのシステム開発においてはその影響について十分に配慮できる。これらの能力について他者を支援できる 						

【身に付けるべき各能力における到達レベルの定義】

「これからのデジタル社会において身に付けるべき能力」について、海外のICTリテラシー関連事例の調査を行い、ロードマップで示された案を元に、身に付けるべき5つの能力領域及び22個の能力を整理し、その能力の到達レベルを定義しました。

能力領域	#	能力番号	身に付けるべき能力	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	※偽・誤情報や生成AIに特に関連する能力には○を記載しています。 偽・誤情報 発信者 受信者 拡散者 生成AI			
				他律	平常時は自律	自律	他者をリード				
				他者の助けがある状態で能力を発揮できる	生活に必要な範囲で該当の能力を発揮できる	該当の能力について基本的な内容を一通り身につけて利用できる	生活の中で該当の能力を使いこなし、他者を支援できる程度に理解している				
e.【活用】 デジタル技術の利用にあたっての課題解決やデジタルツールを用いた課題解決に関する能力	19	e-1	自らのニーズに合わせてデジタルツールを調整しながら利用できる	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で生活に必要なデジタルサービスを十分に活用できない 学ぶことに対する意欲が低い 行動の判断軸がない。実生活での行動規範にのみ従う デジタル空間の特性について理解していない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で単純な課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる トラブルがある場合や外部からの意識を受けて学ぶ 行動の善し悪しの判断で間違える場合がある デジタル空間の特性への理解が薄い 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のニーズに合わせて、明確に定義された課題、初めて出会った課題を解決しながらデジタルサービスを利用できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 他者に迷惑をかけない範囲で自らの行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を基本的な範囲で理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な文脈の中で、自分や他者のニーズに合わせて、必要であれば他者をガイドしながら実行できる 主体的にデジタルリテラシーについて学ぶ姿勢が身につけている 発信者としての責任や公共へ貢献する意識を持って行動の善し悪しを判断できる デジタル空間の特性を十分に理解している 				
20	e-2	デジタル技術に関連するトラブルを特定し、解決する	<ul style="list-style-type: none"> 一人では身の回りにおけるデジタルデバイスの操作やデジタル環境の利用時に生じる問題を把握し、特定することが難しい 他者の助けがあれば、それらの問題の解決に利用可能な簡単な方法を特定できる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な範囲で、身の回りにおけるデジタルデバイスの操作やデジタル環境の利用時のよくある問題を特定できる それらの問題に対して、定型的な解決方法を選択できる 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおけるデジタルデバイスとその機能、またそれらに生じる一般的なトラブルの原因について理解し、基本的な問題を特定できる それらの問題に対して必要に応じてオンライン・オフラインでの情報収集を通して問題を解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で利用しうるデジタルデバイスやその機能について、好奇心を持って理解を深めようとしている。その上で、それらに生じるトラブルについて原因を幅広く特定できる。また、問題の特定に必要なスキルや方法について他者を支援できる 把握・特定した問題に対して、段階的な分析を行いオフライン・オンラインの情報収集を組み合わせて解決できる。また、解決に向けたアプローチについて他者を支援できる 					
21	e-3	デジタル技術を活用して、身の回りの課題・社会課題を解決する	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、社会的・実践的な課題を解決し、新しい知識の創造やプロセスの革新につながる簡単なデジタルツールやテクノロジーを利用できる 他者の助けがあれば、社会的問題や実践的な問題の解決にデジタル技術を用いることに前向きになれる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活でのよくある課題を解決するために、一般的なデジタルツールやテクノロジーを利用できる 日常生活でのよくある課題を、デジタルツールやテクノロジーを用いて、必要であれば他者と協力しながら解決しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールやテクノロジーが社会のさまざまな課題を解決しうることを理解し、一般的な課題に対して必要となる技術を選択できる デジタルツールやテクノロジーを社会課題解決のための手段として認識し、実際に課題解決に対して前向きに取り組む姿勢を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな社会的な課題に対して、多くのデジタルツールやテクノロジーの中から解決に向けて最適な技術を選択できる。また、それらの選択方法について他者を支援できる デジタルツールやテクノロジー（AIなどの最新技術も含む）の利用が社会課題の解決に対して果たす役割や、課題解決に向けて取るべき態度・アプローチについて理解している。また、他者にそれらの態度やアプローチについて説明し支援できる 				○	
22	e-4	自分自身や周囲の人々のデジタルリテラシーを振り返り、能力の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、自らのデジタルリテラシーの向上や知識の更新が必要な箇所を認識できる 他者の助けがあれば、AIをはじめとしたテクノロジーの進化に伴って新しく学ぶべき内容を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で必要があれば自らのデジタルリテラシーを振り返り、向上が必要な箇所を認識できる。また、簡単な方法であれば自ら知識を更新できる AIなどテクノロジーの進化について部分的に理解しており、日常生活に必要な範囲で簡単な方法であれば自らの知識を更新できる 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルリテラシーを維持・向上させることの必要性とその意義について基本的な内容を理解しており、必要に応じて自らのリテラシーを評価しフィードバックを得ることに前向きである。また他者のデジタルリテラシーの向上を前向きに支援する。 AIをはじめとしたテクノロジーの発展と社会への影響について基本的な内容を理解し、自らのリテラシーが必要な箇所を把握している 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルリテラシーを維持・向上させることの必要性やその意義、デジタルリテラシーの不足によって生じる困難などについて網羅的に理解しており、自らのデジタルリテラシーのレベルを定期的に振り返り、向上させる取り組みを行なっている。また、これらの方法について他者を支援し、他者のデジタルリテラシー課題の把握や向上をサポートできる AIをはじめとするテクノロジーの発展について継続的に知識を更新しており、その社会の影響について網羅的に理解している。さらに生涯にわたって知識を更新していくことに対して前向きである。また、他者に対してデジタルの進化に合わせて知識の更新が必要となる箇所を支援できる 				○	